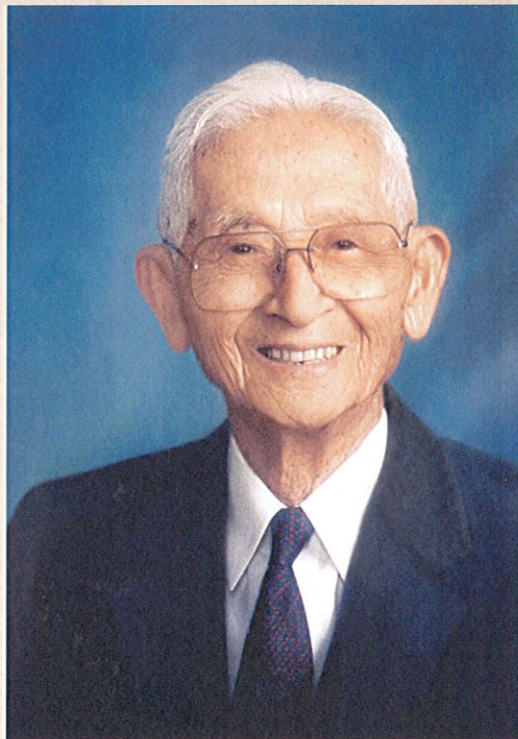


# 和田 勇氏について

明治40年、米国ワシントン州ベリングハムに移民二世として生まれ、4歳の時、父の故郷、和歌山県御坊市名田町祓井戸に帰国し、同地や由良町戸津井で祖父母に育てられた。その時の漁村での助け合いの生き方が終生かわらぬ奉仕の精神の原体験となる。戦後は、ロサンゼルスで「ファーマー・フレッズ・マーケット」を開業、食料品小売商を営む実業家となり、17店舗まで拡大する。昭和24年、戦後日本にとって初の全米水泳選手権大会に参加した古橋廣之進氏ら9名を自宅に泊め、献身的に世話をした。その結果、選手達は数々の世界新記録を樹立、「フジヤマのトビウオ」の名は世界を駆け巡り、敗戦後の日本人、日系人に光明を与えた。これがきっかけとなり、東京オリンピック誘致の特命全権大使級の権限を当時の岸総理から与えられ、私費を投じて夫婦で中南米やヨーロッパ諸国の関係者を訪れ、支持を呼びかけ1964年の東京オリンピックの開催が実現した。和田氏のこの努力がなかったら東京大会は実現しなかったともいわれている。和田氏は、人のため日本のために我が身を捧げた人であり、数々の宝章を受章され、平成13年2月12日肺炎のため93歳の生涯を閉じた。平成16年、御坊市制50周年を記念し、御坊市名誉市民の称号が贈られた。



## 講演／演題

「祖国を思う心～和田勇さんのオリンピック秘話～」

講師：白駒 妃登美（博多の歴女）



### 白駒 妃登美氏 プロフィール

福岡市在住。幼い頃より伝記や歴史の本を読み、その登場人物を友だちのように感じながら育った。福沢諭吉に憧れて慶應義塾大学に進学。卒業後、大手航空会社に入社し、国際線に約7年間乗務。その後、大病をわずらい、命と向き合うなかで、先人たちの生きざまを振り返り、『未来の自分に必要なことが、いま起きている』という思いに至り、『今を受け入れ、最善を尽くし、平然と生ききる』覚悟を定める。生き方を変えたことで病状が奇跡的に快復した経験から、その気づきに導いてくれた先人たちの「志」や、そこに生きた人々の「思い」に触れる歴史の講演を始める。その講演に「日本人に生まれてよかった」、「こんな歴史の先生に出会いたかった」と涙する参加者が続出。講演、テレビ・ラジオ出演は、現在年間200回を超える。